

2023年9月24日 説教「幕屋の建て直し」

使徒の働き 15章 12～21節

パウロとバルナバがエルサレムに上るに及んで、異邦人の救いに関して、エルサレムで会議が開かれることになりました。

### 1. 沈黙する会衆 (1～3節)

①耳を傾ける会衆 (12)「すると、全会衆は沈黙してしまった。そして、バルナバとパウロが、彼らを通して神が異邦人の間で行われたしるしと不思議なわざについて話すのに、耳を傾けた。」

使徒ペテロが、異邦人コルネリオが信仰をもち、聖霊が働かれたことを立証すると、会議に参加した人々は静まってしまいました。続いて、バルナバとパウロが伝道旅行において、異邦人が救われて来た様子を伝えると、彼らは注意深く、それを聞いたのでした。異邦人が信仰を持った時にも聖霊は確かに働かれたことは興味深いことでした。

②ヤコブの登場 (13)「ふたりが話し終わると、ヤコブがこう言った。『兄弟たち。私の言うことを聞いてください。』」

バルナバとパウロが証した後に、登場したのはヤコブでした。このヤコブはイエスの兄弟です。イエスは聖霊によってマリヤの胎に宿されましたが、ヤコブはヨセフとマリヤの間に生まれた子でした。ヤコブはこの時には、エルサレム教会の牧師をしていました。そのヤコブが、会衆の人々に向かって、以下のような説得の言葉を語り始めたのです。

③異邦人を顧みて (14)「神が初めに、どのように異邦人を顧みて、その中から御名をもって呼ばれる民をお召しになったかは、シメオンが説明したとおりです。」

ここに、シメオンとあるのは使徒ペテロのことです。彼が語ったことは、神がユダヤ人と同じように異邦人も愛しおられるということでした。そして、召しに応じてイエス・キリストを信じるようになったのが、確かに異邦人であったことを説明したのです。

### 2. 異邦人についての預言者の言葉 (4～6節)

①預言者たちのことば (15)「預言者たちのことばもこれと一致しており、それにはこう書いてあります。」

ヤコブは異邦人が実際に救われているという事実を受け入れつつ、そのことの裏付けとして、預言書を示して証明していきます。以下はいくつかの預言書からの引用です。

②廃墟と化した幕屋を (16)『「この後、わたしは帰って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す。すなわち、廃墟と化した幕屋を建て直し、それを元どおりにする。』」

これはアモス書9章11節からの引用です。ダビデの幕屋というのは、ダビデの統治という意味合いです。ソロモン以降、ダビデの信仰に基づく国は崩れていきます。そして廃墟のようになっていったのです。そのダビデの統治を元通りにしていくという預言がここにあります。



③異邦人がみな (17~18) 『それは、残った人々、すなわち、わたしの名で呼ばれる異邦人がみな、主を求めようになるためである。大昔からこれらのことを知らせておられる主が、こう言われる。』

アモス書 9 章 12 節からの引用です。そこには、ダビデの統治を建て直すためになされることは、残った人々である異邦人が、主に招かれるようにして、主を知るようになることだということです。つまり、ダビデの信仰による統治の回復は、イエス・キリストを通してなされたこととヤコブは語っているのです。それも異邦人が救われることによって、その壮大な預言は成就されていくと語っているのです。

### 3. 異邦人を悩ませない (19~21 節)

①ヤコブの判断 (19) 「そこで、私の判断では、神に立ち返る異邦人を悩ませてはいけません、」

預言書からの裏付けを語った後に、ヤコブは自分の判断を伝えます。福音宣教を通して神に立ち返った異邦人たちを、ユダヤ人クリスチャンたちの考え違いによって、悩ましてはいけないというのが彼の考えでした。つまり、信者になった異邦人は割礼を受けなければならないとか、モーセの律法遵守を押し付けたりすることがあってはならないということです。

②避けるべきこと (20) 「ただ、偶像に供えて汚れた物と不品行と絞め殺した物と血とを避けるように書き送るべきだと思います。」

一方で、クリスチャンになった異邦人には注意しなければならない点があるとも伝えます。異邦人には偶像に供えた物を食べる習慣を止めること、性的秩序を理解すること (レビ 18:6-8)、絞め殺した動物には血が残っているので食べないこと、などを書き送ることは必要だと述べるのです。

③モーセの律法を (21) 「昔から、町ごとにモーセの律法を宣べる者がいて、それが安息日ごとに諸会堂で読まれているからです」

これらのことを加えることにしたのは、町ごとにいつユダヤ人たちがモーセの律法を、安息日ごとに諸会堂で読んでいるからだということです。ユダヤ人クリスチャンはそれらのことを踏まえているとしても、異邦人クリスチャンにはそれが頭にないからです。であれば、20 節にあることは最低覚えておくべきこととして、伝えることとしたのです。これは両者の考えを覚えながらの、いわば妥協案でありましたが、受け入れられたようです。

### 《結論》

エルサレム会議はキリスト教の歴史においても、画期的な出来事でありました。ここでの決定がなければ、キリスト教会は地域的にも、民族的にも、小さく収まってしまうかもしれません。元々イエス・キリストの福音は世界大に広がるビジョンのもとにありました (マタイ 28:19)。しかし、この時点でユダヤ人クリスチャンと教会が正しい方向を定めなければ、力を失って、世界大の広がりを得ることはなかったでしょう。

この会議にはアンテオケ教会から送り出されたパウロ、バルナバという異邦人

宣教の経験者と、エルサレム教会から送り出されて同じように異邦人伝道を経験したペテロがいました。そのペテロが異邦人の救いの立証と説得するのを聞いて、ユダヤ人クリスチャンたちは自分たちの主張を声高に叫ぶことをやめ、沈黙してしまいました。そして今ここに、エルサレム教会の牧師であるヤコブが、これまでの議論をまとめるようにして語ったのです。その中で特に大切だと思われることは、彼が旧約聖書の預言書から引用して、この出来事の意味を述べたことでした。即ち、アモス書の 9 章などにあるように、ダビデの幕屋が建て直されるということです。これは見える幕屋というよりも、信仰に基づいて建て上げられたダビデの王国が、霊的な意味において、建て直されるという意味です。特に異邦人が神様の召しに応じて、(キリストを通して) 主を知るようになるという部分が重要です。ヤコブはこうした預言の言葉を引用して、異邦人が救われることは、神から来たことであると確認しているのです。ヤコブはユダヤ人の主張を配慮しつつも、このことを明言しました。彼のこの発言で、教会の行く方向は明確にされ、決議されていったと言って良いでしょう。

皆さん、今日私たちは当たり前のように、世界宣教とっていますが、それは初代教会が大変な霊的葛藤を越えて来たから実現しているのです。蟬がその抜け殻を捨てて、命を始めるように、当時のキリスト教会も脱皮する必要があったのです。そして、主は教会の人々を用いて、それまでの考えにとどまることなく、世界大の宣教へと進むことができたのです。

キリスト教と言えば、アメリカ人やヨーロッパ人のことがすぐに浮かぶかもしれませんが、彼らも異邦人です。そして異邦人である彼らの宣教を通して、同じく異邦人である日本人も福音を知るに至りました。中国人も韓国人も異邦人です。まずは、福音がここまで届けられたことを確かめましょう。そして感謝しましょう。主の恵みです!

福音はユダヤ人と異邦人とを区別しません。この時代にあっても、福音は民族、立場、能力、経歴、年齢などによって差別をしません。どんな背景があっても、信じるなら救われます。また、差別なく宣教がされるはずですが、とはいえ、私たちは弱者達ですから、差別する心に陥り、宣教を狭めてしまうことがあります。それは罪です。福音は差別しません。なぜなら、キリストはだれであっても受け入れて下さる主だからです。キング牧師は「私には夢がある」といって、1960年代のアメリカで白人による黒人差別について、いつかその差別がなくなるようにと訴えました。クリスチャン国のアメリカでの差別です。矛盾していますが、そこに人間の罪深さがあります。

エルサレム会議はユダヤ人と異邦人の間には区別はないとした出発点です。さらに、この会議の原点はキリストです。キリストは子供達、病気の者達、弱い者たちを愛して共に歩んでくださった方です。ユダヤ人から見れば、外国人であるサマリヤの女も受け入れられました。イエス・キリストを見上げていきましょう。この時代の幕屋の建て直しのために、私達も主の心を心とし、隣人に差別を付けずに、福音を伝えていきましょう。